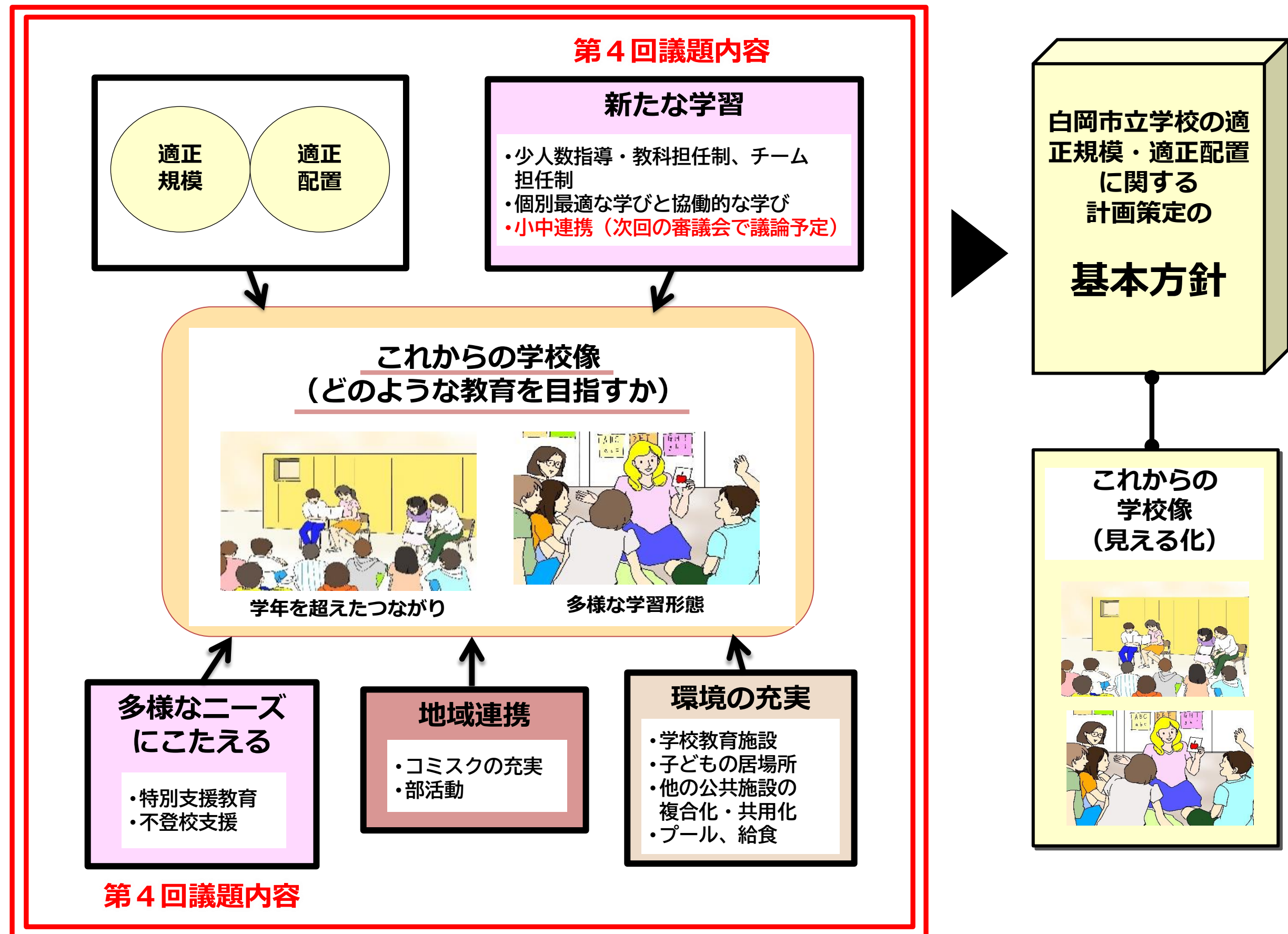


新たな学習及び多様なニーズへの対応について

1. 少人数指導・教科担任制・チーム担任制について
2. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」について
3. 特別支援教育への対応
4. 不登校への対応

白岡市の『これからの学校像』の具体化



1. 少人数指導・教科担任制・チーム担任制について

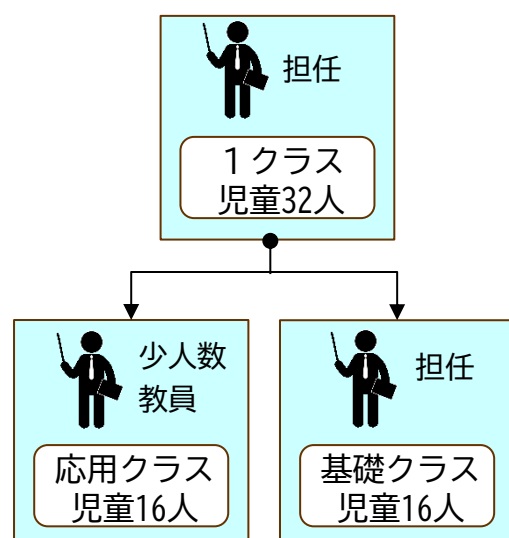
(1) 少人数指導と教科担任制

① 少人数指導とは

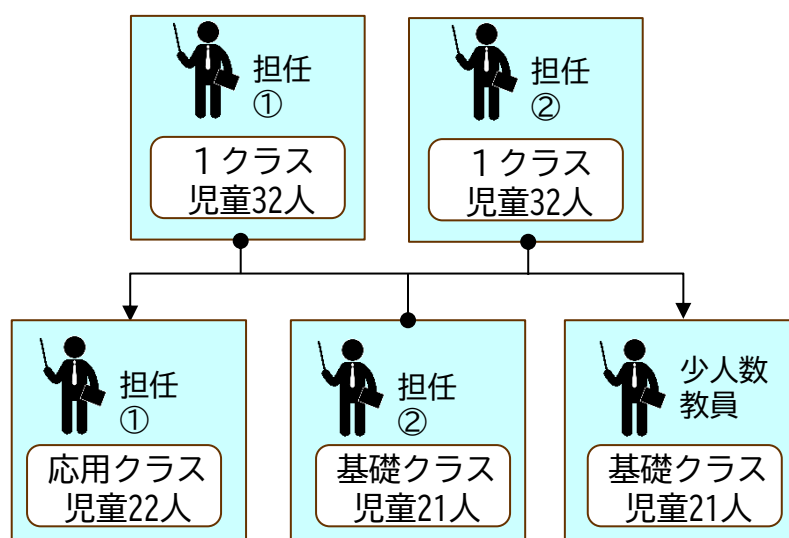
- 少人数指導とは、一つまたは複数の学級を分割して少人数のグループで指導を行うことで、児童・生徒一人ひとりの学習状況に合わせたきめ細やかな指導を可能にする教育手法である。
- 複数の教室に分かれて、児童生徒の理解度に応じた授業を行う「習熟度別指導」や、一つの教室の中に複数の教員が入り、授業を行う「チーム・ティーチング」等がある。

●習熟度別指導の例

①1つのクラスを2つに分割



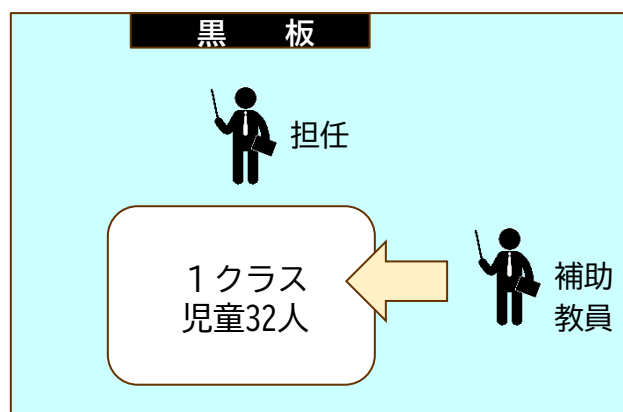
②2つのクラスを3つに分割



※算数や英語・数学など、少人数学習の効果が大きい科目で実施

メリット：児童生徒の学習ニーズに合わせた対応が可能になる。
少ない教員の加配で、複数の学年に対応できる。

●チーム・ティーチングの例



- 担任が授業を進めながら、補助教員が一人ひとりの質問に答えたり、個別指導を行う。
- 例えば英語の場合、補助教員にネイティブの先生に入ってもらえるような対応もできる。

メリット：生徒へのきめ細やかな指導、教師間の協力による指導力向上、多様な学習ニーズへの対応 など

② 教科担任制とは

- 教科担任制とは、小学校高学年から特定の教科について、専門とする教員が授業を受け持つ制度である。
- 教科担任制を導入することによって、「授業の質の向上」「多面的な児童理解」「小・中学校間の円滑な接続」「教師の負担軽減」などの効果が期待できる。

●導入事例

【東京都】墨田区立二葉小学校

児童数：676人 学級数：1 学年3～4 学級



導入のねらい	- 教師の授業改善を進め、教師一人一人の授業の質、専門性の向上を図る - 組織的な生活指導を進め、学校全体の指導体制の転換を図り、学年・学級経営を充実させる - 指導体制の転換を図ることにより、学校における働き方改革を推進する
導入効果	【教職員への効果】 - 学級担任が担当した教科の指導を複数の学級で繰り返し行うことにより、授業改善を日常的に意識して行うことができるようになっている。【授業の質の向上】 - 学級担任の授業準備にかかる時間が少なくなり、負担軽減につながっている。【働き方改革の視点からの負担軽減】 等 【児童の声】 - いろいろな先生と勉強ができて楽しい！ 飽きない！ - 一人一人の先生の面白さがある！ 等

対象学年・対象教科・実施形態

- 対象学年 第3学年、第4学年、第5学年、第6学年
- 対象教科・実施形態

	学級担任間の 授業交換による授業	専科教員による授業	中学校教員による授業
3 年		算数・音楽・図画工作・理科	
4 年		算数・音楽・図画工作・理科	理科（全時数の1/3）
5 年	国語・社会・体育	算数・音楽・図画工作・外国語	理科
6 年	国語・社会・体育	算数・音楽・図画工作・外国語	理科

※専科教員については、基礎定数内の教員（音楽、図工）、加配教員（算数、理科）、都時間講師（外国語）に加え、授業交換を組み合わせ実施している。

出典：小学校高学年における教科担任制に関する事例集（文部科学省令和5年3月）

③ 今後の方向性（案）

- ✓ 少人数指導や教科担任制の充実による、個に応じた児童・生徒へのきめ細やかな支援を推進する。ただし、教職員数の確保については、国・県へ要望していく。

1. 少人数指導・教科担任制・チーム担任制について

(2) チーム担任制

① チーム担任制とは

- チーム担任制（学年担任制・複数担任制）とは、学級担任を1年間固定せずに、複数の教員が一定期間（例：1週間ごと等）で交代する仕組み。
- その教員が属する学年の児童生徒全員を見ることができるほか、同じ学年だけではなく、複数学年にわたって担任をすることもある。

イメージ

		9月1週目	9月2週目	9月3週目	9月4週目
	担任A	1組 HR 担当	2組 HR 担当	サポート	1組 HR 担当
	担任B	2組 HR 担当	サポート	1組 HR 担当	2組 HR 担当
	担任C	サポート	1組 HR 担当	2組 HR 担当	サポート

■チーム担任制のメリット・デメリット

メリット

●負担が軽減される

- 保護者との懇談会や面談に複数の教師で参加するなど、**保護者対応や児童生徒の指導案件を一人で抱え込まず**にすむ。
- 新任で着任した春先でも、**グループのほかの先生からのアドバイスを受けられる**。
- 2時間目から出勤する先生が部活動に対応するなどの、**時差出勤制の導入が図れる**。

●質の高い指導ができるようになる

- 専門性のある教員による授業が行われることにより**質の高い指導**が行える。
- 教科担任制と併用しやすいため、**教材研究等の時間の確保ができる**という教職員の声が多い。
- 複数学年を担当するチーム担任制の場合には、**教科の縦持ちにより複数年を見越した体系的な授業が行える**ようになる。

●児童生徒の細かい把握や指導や支援がしやすくなる

- 例えば、学校への不適応やいじめ等、様々な問題が起こりやすい中学校1年生においては、**より細かく、多面的に生徒の様子を見ていくことができる**。
- 支援の必要な児童に対して、学年全体で支援する場合や1～2人の教員の支援で対応する場合など、さまざまな支援ができる。**また、支援の内容によって適任の教員が担当することもできる**。

●若手教員の育成

- 若手教員が、**チーム担任のベテラン・中堅教員の授業の進め方を学ぶ**ことができる。

●保護者の安心感

- 担任の先生とうまくいかなかった経験のある家庭では、**何人もの先生から見てもらえるという安心感**が得られる。
- 学級間の差がなくなる**ことへの期待がある。

デメリット・課題

▼責任の所在が曖昧になる

- いじめなどの問題に対しても、チームを構成する教員の誰かが**「我がこと」意識を持たず、積極的な責任意識を持たなくなるというリスク**も懸念されている。

▼児童生徒の理解が十分にできない可能性がある

- 固定学級が存在しないことと教科担任制により教科を分担することにより、児童と接する時間が減少してしまい、**児童理解に影響を及ぼす可能性**が指摘されている。また、教員間での児童生徒の情報共有が十分にできないことも起こりうる。

▼誰に相談するのかがわからない

- 保護者は、「まず担任に相談する」という意識があることから、**「誰に相談してもいい」**ということメッセージとして発信し、理解を得ることが求められる。

出典：「「チーム担任制」の実践に関する一考察-その成果と課題-」 兵庫教育大学 研究紀要.66 2025年2月
「全国の学校における働き方改革事例集」 文部科学省 2021年3月 より作成

■チーム担任制を導入している自治体・学校の例

自治体・学校	内容
京都府京都市	岩倉北小学校でチーム担任制についてアンケート調査した結果、教職員からは「生徒指導に効果があった」「学習指導に効果があった」「仕事の負担を減らすのに効果があった」などの回答があった。一方で、「学習定着の様子や遅刻・欠席の把握がしにくく、学習面、生活面ともに必要な声かけ・指導がやりきれなかったと感じる毎日」などの回答があった。
富山県南砺市	令和2年度より「チーム担任制」を導入。チーム担任制の効果として、「質の高い授業を全ての子供たちに提供する。」「少子化による固定されがちな人間関係を解消する。」などが挙げられている。一方課題として、「担当者が日毎に変わることによって、「落ち着かない」と感じる子供が出てくる」「日々の引継ぎや情報交換、年間指導計画等の見直しが必要となる」などがある。
兵庫県神戸市	令和5年度から「学年（チーム）担任制」を小学校2校、中学校2校で実施。令和6年度は小学校5校、中学校3校、義務教育学校1校にモデル実施を拡大している。「学年（チーム）担任制」について児童生徒へアンケートした結果、児童生徒が肯定的に受け止めている割合が約7割以上となっている。学校運営面の効果として、「学級間格差の少ない安定した学年運営ができる。」などが挙げられている。
岡山県津山市 向陽小学校	令和6年度から「フロアー担任制」を導入。その目的として、「複数の教員が様々な視点から子どもを見て、多面的な理解と多様な関りをする」「子どもの不安や悩みに気づき、具体的な対応ができる学校のチーム体制を作ること」となっている。
静岡県静岡市 竜南小学校	竜南小では、子どもを主語にした学校のシステムを構築するため、複数の教職員で組織するチーム担任制に取り組んでいる。取組の成果として、「担当学級以外の児童への指導に抵抗がなくなった」「困り感を抱えた児童が担当以外の教諭へも話ができるようになった」などが挙げられている。

出典：各自治体、各学校ホームページより

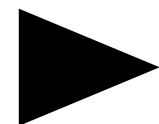
② 今後の研究

- ✓ 学級担任を固定せずに、複数の教員で対応する学級運営のあり方について、今後研究していく。

2. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

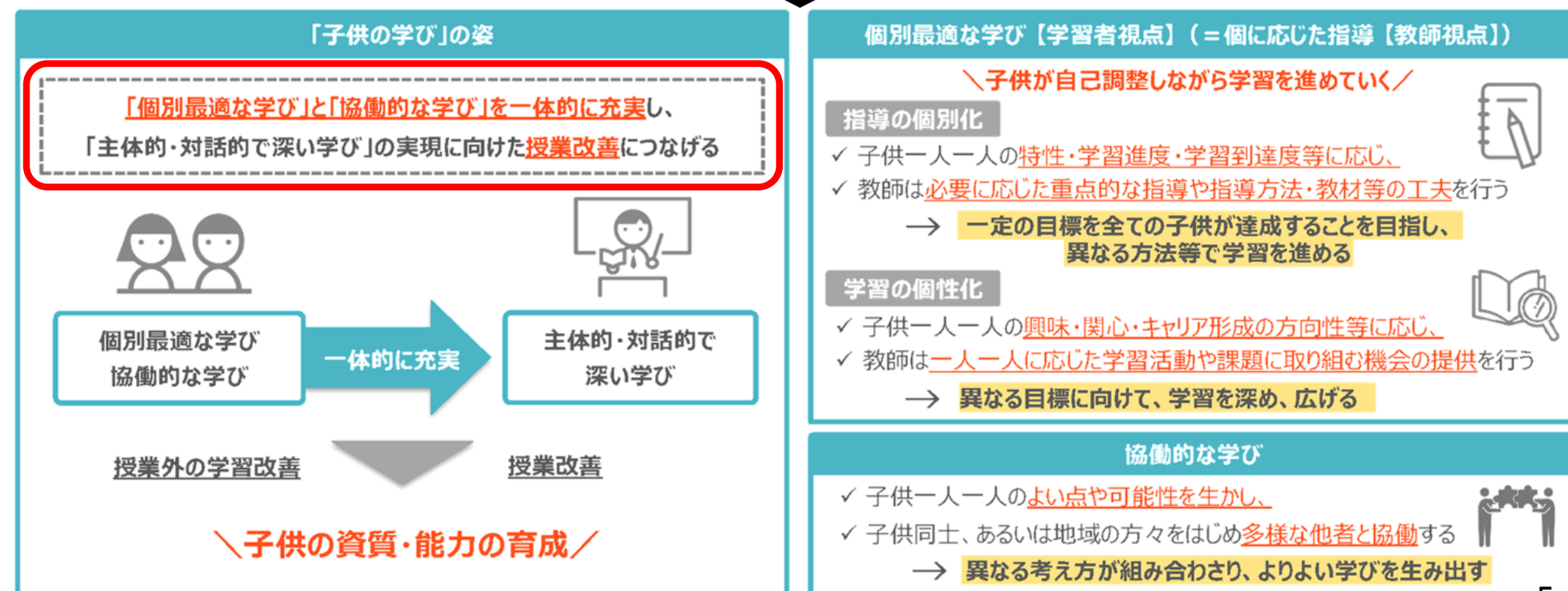
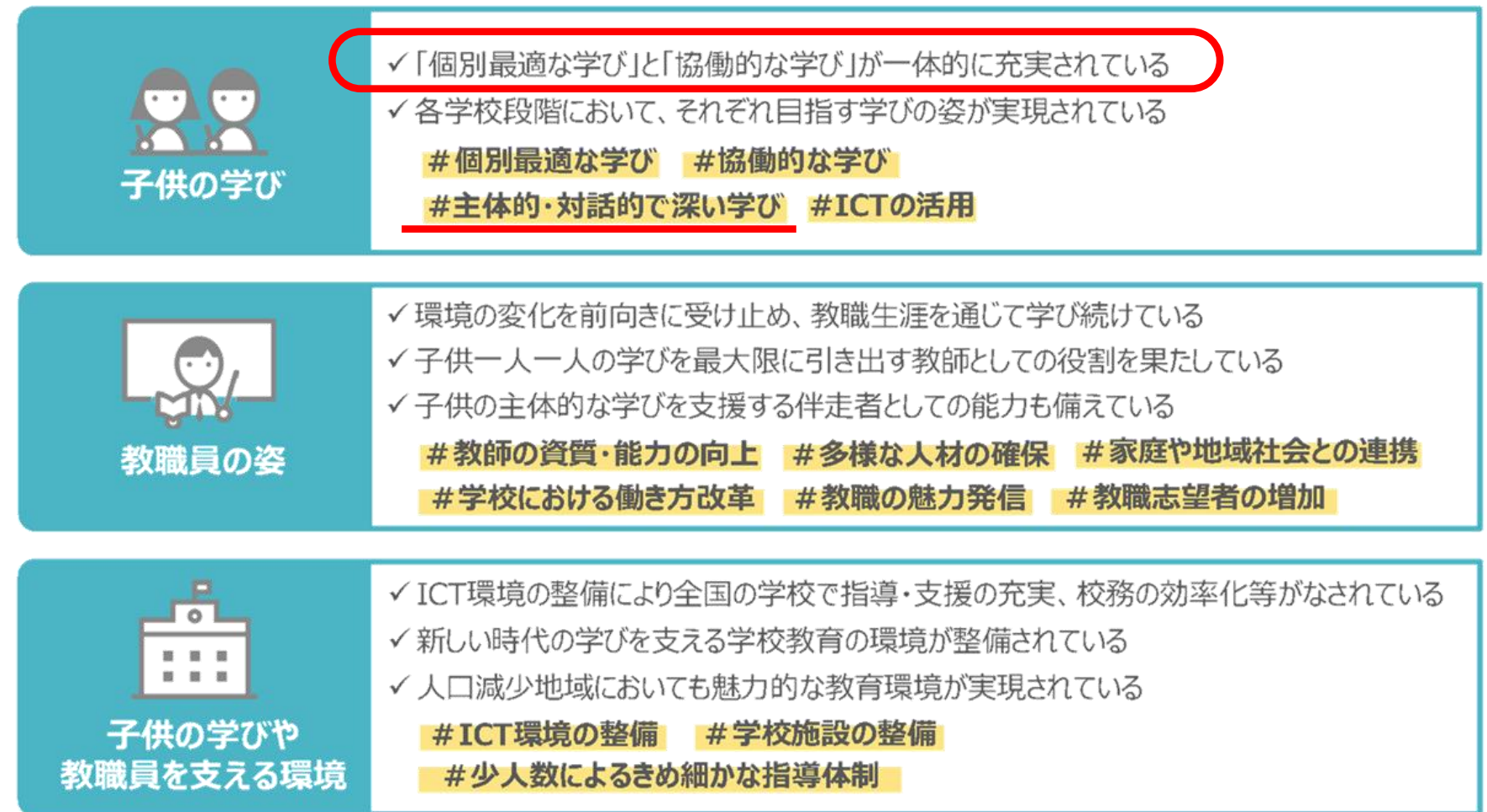
(1) 国の考え：

中央教育審議会
「「令和の日本型学校教育」の構築を
目指して（答申）」



2020年代を通じて実現を目指す学校教育
「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



2. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

(2) 白岡市の取組

1) 小学校

① 篠津小学校の取組

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

教科	国語
身に付けたい力	立場を明確にした話合いの仕方や、計画的な話合いの仕方
取組	議題について考え、自分の意見をまとめる学習を進める上で以下の内容に留意した。 ・ 取り組み方（一人で、グループで、教えてもらいながら）や思考ツールは自分の学びに合わせて決めてよいこととする。 ・ コラボノートを活用して、自分の意見をまとめる。 ・ 意見をまとめる際には、付箋を動かしたり、線で繋げたりしてもよい。 ・ 計画的な話合いの仕方を確認する際には、動画を見ても台本を活用してもよいこととする。
効果	子供たちは、多くの場面で自分にあった取り組み方を選択することができた。そのため一人一人が課題意識を明確にもち、主体的に学習に取り組むことができた。   

② 菁莪小学校の取組

「日々の授業における、個別最適な学び」

教科	外国語（第5学年）
身に付けたい力	場所をたずねたり、答えたりすることができる。 （自分の知りたい場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方などについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりすることができる。）
取組	英語で道案内をする際に、「目的地」を決めて案内させるのではなく、「状況」を設定し、児童にどこに行くかを考えさせ道案内をさせた。 例） ・ 「今日は友達の誕生日です。地図上のどこかの場所に寄ってから、友達の家に行きます。あなたならどこに行きますか。」などと質問する。 ・ 児童によって花屋さん、ケーキ屋さん、ショッピングセンターなど、それぞれが判断して目的地を決めた後、その場所までの行き方について英語で説明をさせた。 ⇒「英語で道案内をする」という目標をクラス全体で共有しつつ、個々で考える時間についても確保しながら学習を進めた。
教科	外国語（第6学年）
身に付けたい力	食材を通じて世界のつながりを考え、メニューを発表することができる。
取組	・ 児童一人一人がカード（自分が食べたいカレーとそのカレーに主に使われている食材、その原産地が載っているもの）を作成し、カレー、食材、原産地、値段などについて発表する活動を行った。 ・ 「それぞれが作成したカードについて、協働学習支援ツール「コラボノート」に写真を撮影して提出し、その写真を見せながら発表する場を設けた。 ・ 英語で自分の考えを伝えることに対して、やや苦手意識をもっている児童も、テレビの画面上にカードがあることで発表の助けとなる部分があった。 ・ また、発表の前に自分の学習用iPadを用いて自分が話している姿の動画を撮影した。自分が話している姿を確認することで、発音だけでなく、姿勢、目線、ジェスチャーなどについても振り返る時間をもち、それぞれの児童がよい点や改善点について確認をした。また、さらによいスピーチになるにはどうすればよいかについて考え、実践した。

出典：令和6年度「学力向上に係る効果的な取組事例」の紹介（埼玉県）等より作成

④ 西小学校の取組

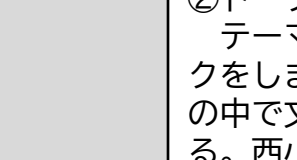
「自ら学び続け、互いに認め、高め合える西小っ子の育成
～主体的・対話的な学びの充実を目指して～」

令和5年度から研究課題として「自ら学び続け、互いに認め、高め合える西小っ子の育成 ～主体的・対話的な学びの充実を目指して～」を設定し、国語・学級活動・体育の研究に取り組んでいる。	
教科	国語「伝えよう！〇〇のみりよく！工芸品のよさがわかるリーフレットを書こう」
取組	「読むこと」の「未来につなぐ工芸品」と「書くこと」の「工芸品のみりよくを伝えよう」で構成される複合単元である。「読むこと」で中心となる語や文を見つけて要約し、その学習を踏まえて「書くこと」で理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫して、興味のある工芸品についてリーフレットを作る活動を行っている。

構成を検討している様子

【チームテーマ】話し合いを通して自分の考えを広げ・深める児童の育成
【チームコンセプト】聴く力を高め、話し合い活動の質の向上を図る

教科	体育「どんで！はねて！目指せ金メダル！西小オリンピック2024」 (器械運動・跳び箱運動)
取組	6年生の跳び箱運動では、「伸膝台上前転」、「首はね跳び」を安定して行ったり、「頭はね跳び」に挑戦したりできるようにすることを目標にして学習している。児童の主体的な学びを図るために、技のレベルごとに段階的な場を設定して、児童それぞれに合った練習ができるようにしている。  撮影した映像みながら 意見を交わしている様子

教科	国語タイム「作文チャレンジタイム」「トークタイム」
取組	①作文チャレンジタイム 学年ごとに決めたテーマに沿って、作文を書きます。２段落構成で、１段落目に自分の考え、２段落目にその理由や根拠等を書く。年間を通して繰り返し学習していくことで、作文力向上に努めている。 ②トークタイム テーマを学年や実態に応じて４つの型に分類し、グループやペアでトークをします。友達のトークを聞く時には「引き出し言葉」を活用し、会話の中で文と文をつないだり、次の言葉につなげたりできるよう練習している。西小では児童の表現力向上のために、「引き出し言葉」をクラスに掲示したり、「いいねカード」をクラスで使っている。トークタイム以外にも、国語の授業や、他教科の話合い活動にも活用。  ・紹介型 (私の宝物をしょうかいします) ・対立型 (宿題は、必要か不要か) ・追究型 (本当に優しい人ってどんな人?) ・学習活用型 (「やまなし」のクラムボンの正体は!)

子供の学びの流れ	学習評価
$\frac{2}{5} + 0.3$ の計算の仕方を考えましょう。 ・ 分数+小数だ。このままでは計算できない。 ・ 分数か小数にそろえればできそう。 ⇒ 0.3は3/10と同じだったよね。 ・ 小数を分数にすれば計算できる。 ⇒ $(2/5 + 3/10 = 4/10 + 3/10 = 7/10)$ ・ 分数を小数にすれば計算できる。 ⇒ 7/10と0.7は同じ大きさだね。 ⇒ 分数にそろえても小数にそろえても計算できるね。 ・ 分数と小数、どちらにそろえるとよいと思いますか？ ⇒ 小数の方が計算は簡単ときがある。 ⇒ 小数は分数にできないときがあるから分数がよい。 ・ 分数と小数がまじった計算はどちらにそろえるとよいだろうか。 ⇒ 例えば2/3や6/7とかだと小数にできないから、小数は計算できないときがあるよ。	子供が課題を抱くためには、分数や小数にそろえる方法を知ったうえで、自分の立場をはっきりさせそれぞれのよさを考える必要がある。 【評価】 分数と小数の混じった加減計算の仕方を、分数と小数の表し方に着目して考え、友達との話し合いを通してよりよい解決方法を見出そうとする姿。【態度《A1》】【思・判・表】 「分数にそろえれば、いつでも計算できることに気づき、説明する姿。」 「分数にそろえるといつでも計算できることのよさに気づきながらも、小数にそろえたほうがよい場合について、考えたり、話し合ったりする姿」 「友達の考えで聞いたことを踏まえて、自分の言葉で分数にそろえることや小数にそろえることのよさについて説明し直す姿」

7

⑤ 白岡東小学校の取組

「認め合い、高め合い、未来を切り拓く児童の育成」

教科	算数（4 学年）
身に付けたい力	四則に関して成り立つ性質についての理解を深め、必要に応じて活用できるようにさせる
取組	- 自由交流形式の「ほっこりバードタイム」で話し合ったことを生かして他者発表できる時間につなげる。 - 児童が意欲をもって学習に取り組むことができるよう、身近な鼓笛の隊形移動を考えることとした。また、児童が教材に対して感じた疑問をもとに学習課題を設定した。児童は自力解決後、自由交流を行った。
効果	「ほっこりバードタイム」は、全校統一で実施しており、数人で集まって意見を交換したり、個人で考えを深めたりと各自で学び方を選ぶようにしており、自分に合った方法で学習に取り組むことができている。 

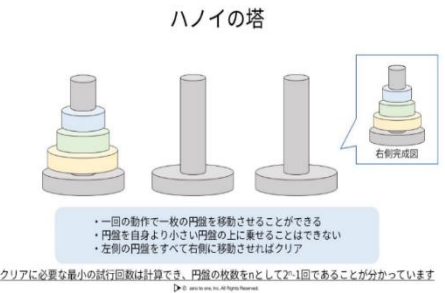
教科	音楽（5 学年）
身に付けたい力	一人一人の技能を伸ばしながら、全体としての演奏を完成させる
取組	- 一人一人の興味・関心を生かした課題を設定し主体的・協働的に楽器の学習活動を促す。 - 授業者が事前に各パートの演奏をタブレットに録音し、児童にエアドロップで送った。児童は自分のパートの録音を何度も聞きながら練習をすることができた。 - このことにより、同じパートの児童と聞き合ってアドバイスをし合ったり、自分の出来栄を振り返って個別に練習したりするなど、協働的・個別的に学習を進めることができた。
効果	児童は自分のパートについてよく理解することができ、他の楽器のよさを見い出しながら曲全体を味わってよく聞いたり、音楽活動を楽しんだりしながら主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる音の重なりに親しむことができた。 

出典：令和6年度「学力向上に係る効果的な取組事例」の紹介（埼玉県）等より作成

2) 中学校

① 篠津中学校の取組

「主体的・対話的で深い学びの実現の推進」

教科	数学
身に付けたい力	学びに向かう力
取組	【いろいろな関数（ハノイの塔）】 ハノイの塔という課題を通して操作的な活動からデータを集め、帰納的に考察し、ねらいに迫る工夫をした。 【相似な図形】 ロールケーキを5等分する課題を通して4、5人グループをつくり、問題解決型の授業を行った。 
効果	【いろいろな関数（ハノイの塔）】 グループワークを通して協働的に学ぶ事で課題を解決できた喜びや、達成感を味わわせることができ、充実した活動になった。また、ICTを有効に活用し、各グループの解答を大画面に映して、どのような表現や考え方がよりよいかを考えた。このような活用により数学の学びを振り返り、数学的な見方・考え方を確かで豊かなものとして実感することの指導を充実させることができた。 【相似な図形】 身近なところから出発し、円柱状を直線と見立て課題を簡潔にしていこうとすることで数理的思考を深めていくことができた。既習事項である作図の考え方を使い、平行線を作図することを通して相似な図形がたくさんできていることに気づかせ、相似条件の発見につなげていくことができ充実した学習活動となった。

教科	社会
身に付けたい力	学びに向かう力
取組	江戸幕府の財政改革にはどんな共通点があったのかを知的構成型ジグソー法により協働的な学習活動の中で意見をまとめた。 ※ジグソー法は「話す」「聞く」「考える」といった、一連の活動を繰り返し、考え方や学び方そのものを学習活動の中で学ぶことができる学習方法
効果	「考える力が身につく」「授業への積極性が高まる」「協調性が養われる」という成果が得られた。特に他者の意見を参考に、自身の意見を再考することができたことが大きな収穫であり、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現することができた。

② 菁莪中学校の取組

「確かな学力の向上と人間性豊かな生徒の育成を目指した授業の取組」

教科	英語科
身に付けたい力	教科書本文の内容について絵や写真を用いながら概要を説明する。
取組	- 単元の最後の時間にRetelling（教科書本文内容について絵を用いながら概要を伝える）活動に取り組むことを伝えたうえで単元の学習に取り組む。 - 発表に向けて各個人が教科書、授業で用いたワークシート、学習者用デジタル教科書を活用しながら概要作成に取り組む。 - 発表練習の際には、自分が発表する姿を個人の学習用端末に録画することで、発表の際の発音やボリューム、話すスピード、表情などについて確認し改善していく。また、ペアやグループで練習する場面も設定し、お互いの発表について振り返りや意見交換を行うことで、より適切な表現を目指す。

教科	社会科
身に付けたい力	個人で考えたことについてグループで話し合うことを通じて考えを深める。
取組	- 単元の導入の際に「誰を市長に選ぶ？」という学習テーマのもと学習に取り組むことで、その後の学習（民主主義、選挙、国会、裁判、地方自治）につなげていく。 - 各候補者のスローガン、市の現状などについての資料から情報を集め、個人で一番適切な候補者について考える。 - 各グループにわかれ、それぞれが考えた意見を伝え合う。自分の考えと相手の考えを比較し、自分の考えをさらに深め、再度一番適切な候補者について個人で考える時間をもつ。 - 投票やその結果から、もう一度自分の考えと比較して考える場を設ける。

教科	家庭学習
取組	- e-ライブラリを活用した家庭学習を実施している。自分で学習する単元を選ぶことができたり、自動で採点してくれたりするため、各個人が効率的に学習を進めることができる。 - 教師は生徒の進捗状況を一覧で把握することができるので、必要に応じた個別の声かけなどにつなげることができる。

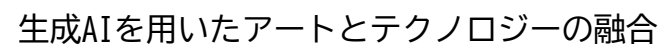
出典：令和6年度「学力向上に係る効果的な取組事例」の紹介（埼玉県）等より作成

「みんなでつくる みんなの南中」の実現
～各種調査等の分析を活かした学校づくり～

取組	STEAM教育
総合型プロジェクト	科学、技術、工学、芸術、数学を統合したプロジェクトを設計し、生徒が実践的な問題解決を通じてこれらの分野を体験的に学ぶ機会を設定する。
専門家との連携	地域社会の専門家や企業と連携し、実際の問題に取り組むプロジェクトを通じて、生徒が現実世界の課題解決に対する理解を深めることができるようにする。
アートとテクノロジーの融合	芸術と科学技術を組み合わせたアクティビティを通じて、生徒の創造性と批判的思考能力を養う。

【具体的な方策】

- ・今までやっている教育活動の中に、STEAM的なものを見つけ定義化する。
- ・教員間で単元の共有をし、他教科の内容を関連づけた授業を実施していく。
- ・可能なら他教科とコラボした授業を実施する。

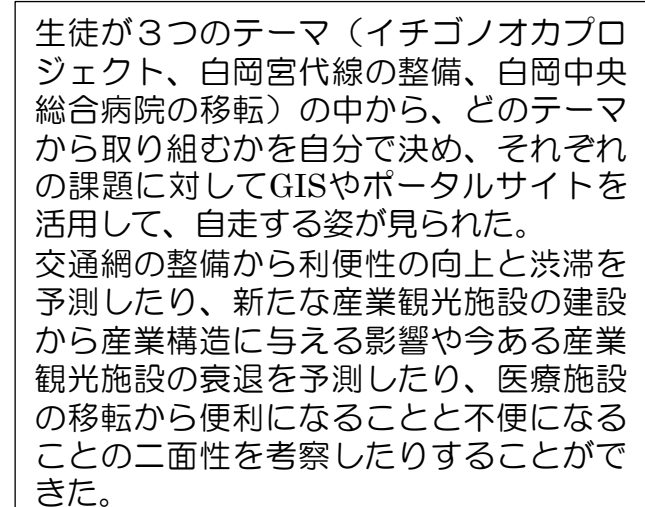


「ICT機器を活用した『個別最適な学び』」

教科	社会
身に付けたい力	自分が住んでいる地域の現状や再開発を理解し、今後どのような影響が想定できるか考察する力、生徒が自己調整しながら粘り強く取り組む力
取組	関東地方の学習の一環として、白岡市の再開発について調べる学習において、①自由進度学習の導入と②GISや③Googleサイトの活用を通して、学習の個性化と指導の個別化を図った。

関東①	関東②	関東③	関東地方で使したGIS
白岡中央総...	イチゴノオ...	白岡宮代線	RESAS 地理院地図
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡宮代線	白岡中央総...	イチゴノオ...	地理院地図
白岡中央総...	イチゴノオ...	白岡宮代線	RESAS Googleマップ 地
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	RESAS、地理院地図
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS、Go
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	イチゴノオ...	白岡宮代線	地理院地図、Googleマッ
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS、ホ
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS
白岡中央総...	白岡宮代線	イチゴノオ...	地理院地図、RESAS

②白岡中央総合病院の移転について、地理院地図から分かることを考えた。他に2つテーマがあり、それぞれGISを活用した。



③Googleサイトで日本の諸地域ポータルサイトと題したHPを作成し、各地方の学習に必要な資料を掲載した。

10

(3) 他自治体の取組事例

●取組事例：行田市教育委員会「ICTを効果的に活用した授業改善の推進」

教科	算数科（小学校第3学年）
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた工夫	- 問題と課題の確認、見通しの時間を短くし、自力解決の時間を多く設定できるようにした。 - 自力解決では、既習内容を確認しながら個人で問題を解いたり、必要に応じてペアで相談をしたりと、各自の実態に合った方法で学習に取り組めるようにし、自身のペースで学習が進められるようにした。 - 自力解決が難しい児童は教師のもとに集め、課題解決に向けた助言を行い、スモールステップで学習に取り組めるように工夫をした。 - 練り上げの場面では、ICTを活用し、複数の解法をモニターに提示しながら、児童一人一人の理解が深められるようにした。適用問題では、AIドリルを活用することで、児童が意欲的に問題に取り組んでいた。
	実態に応じた手立てを講じることで、一人一人の学習内容の確実な理解を促す。 

教科	社会科（小学校第6学年）
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた工夫	- 児童からの大仏づくりに関する疑問をもとに、学習課題を設定し、その課題解決に向けた学習方法を児童一人一人が選択できるようにした。 - 教科書や資料集、インターネット等を各自が選択するだけでなく、個人で取り組むのか、少人数グループで取り組むのかといった学習形態についても選択をすることで、自身に合った方法で学習に取り組むことができた。 - 調べた内容は、Microsoftのホワイトボードに入力をし、分類・整理をしながら共通する内容について確認をした。その際、テキストマイニングを活用することで、重複しているキーワードを可視化することができ、話し合いを焦点化することができた。 - ホワイトボードは単元を通して使用しており、家庭学習等で学習内容を復習する際にも活用できるようにした。
	調べた内容をホワイトボードで共有することで、発表の時間を省き、話し合いの時間を確保する。 

出典：令和6年度「学力向上に係る効果的な取組事例」の紹介（埼玉県）

2. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

(4) 今後の方向性（案）

- ✓ 引き続き、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を図っていく。
- ✓ ICTの特性や強みを生かしたきめ細かな教育を推進する。

(5) 学校教育施設

① 施設状況

- ・ 小学校5校、中学校4校、延床面積57,863㎡
- ・ 令和7年3月に大山小学校(1972年築、3,150㎡)を閉校。
- ・ 旧耐震基準の棟が延べ3.5万㎡が全体の60%を占める。全て耐震補強済。
- ・ 耐震診断時の圧縮強度が13.5N/㎡を下回る建物が5棟あり、それらは建替えが必要。
- ・ 昭和46年以前の建物(11棟 延べ1.0万㎡)はより古い基準の建物のため、躯体の健全性を確認し、改修コストとの比較検討の上、建替えが望ましい。
- ・ 最も新しい白岡東小でも築31年であり、それ以降の校舎の新築はほとんどない。

●対象施設

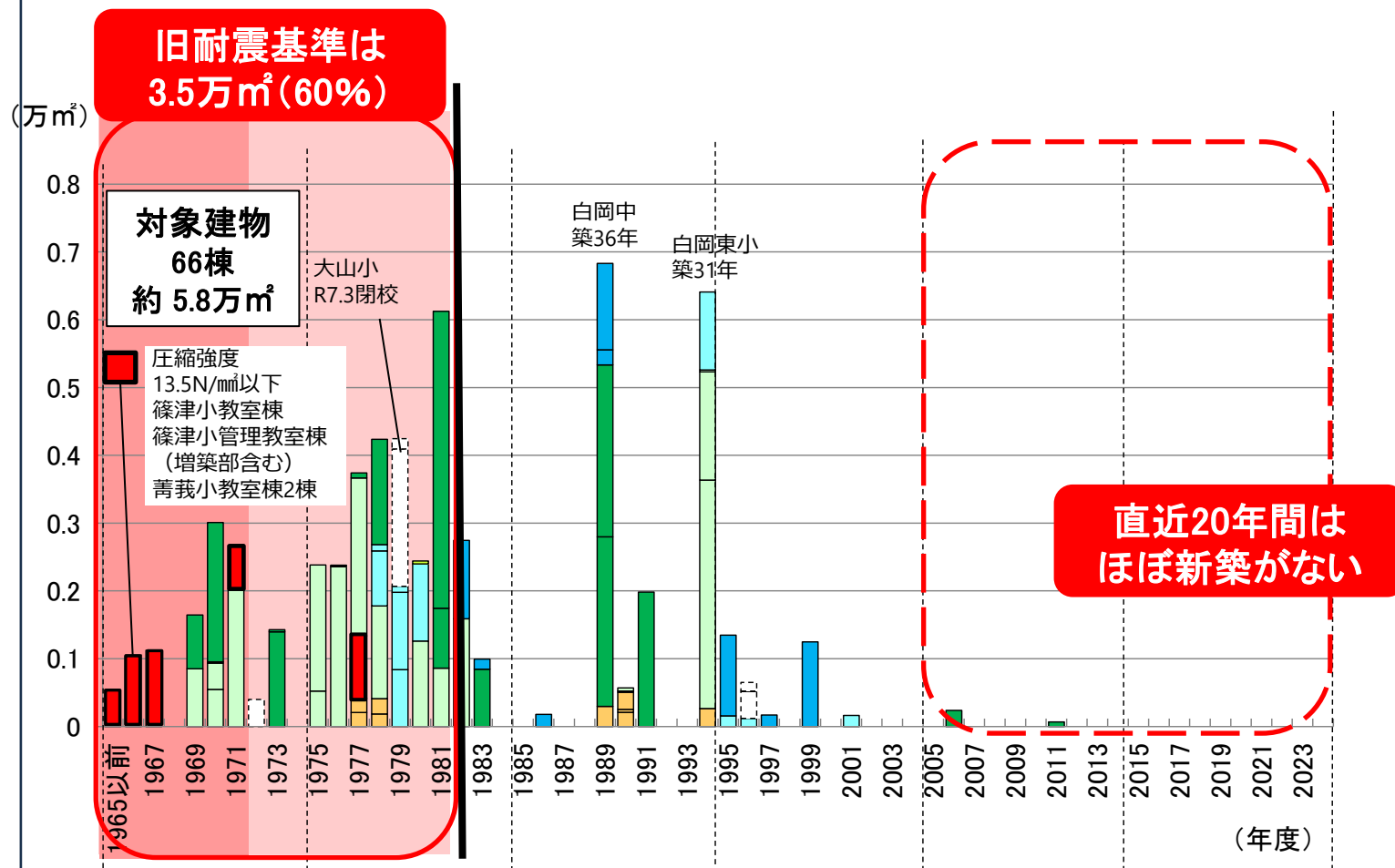
棟種	校種	棟数(棟)	延床面積(㎡)	割合
対象棟	校舎	19	25,211	43.6%
	中学校	12	19,229	33.2%
	総計	31	44,440	76.8%
	体育館	5	5,081	8.8%
	中学校	8	5,588	9.7%
	総計	13	10,669	18.4%
	給食室	10	1,912	3.3%
	付属屋※	12	842	1.5%
	合計	66	57,863	

校種別

棟種	施設数	棟数(棟)	延床面積(㎡)	割合
小学校	5	39	32,119	55.5%
中学校	4	27	25,743	44.5%
総計	9	66	57,863	

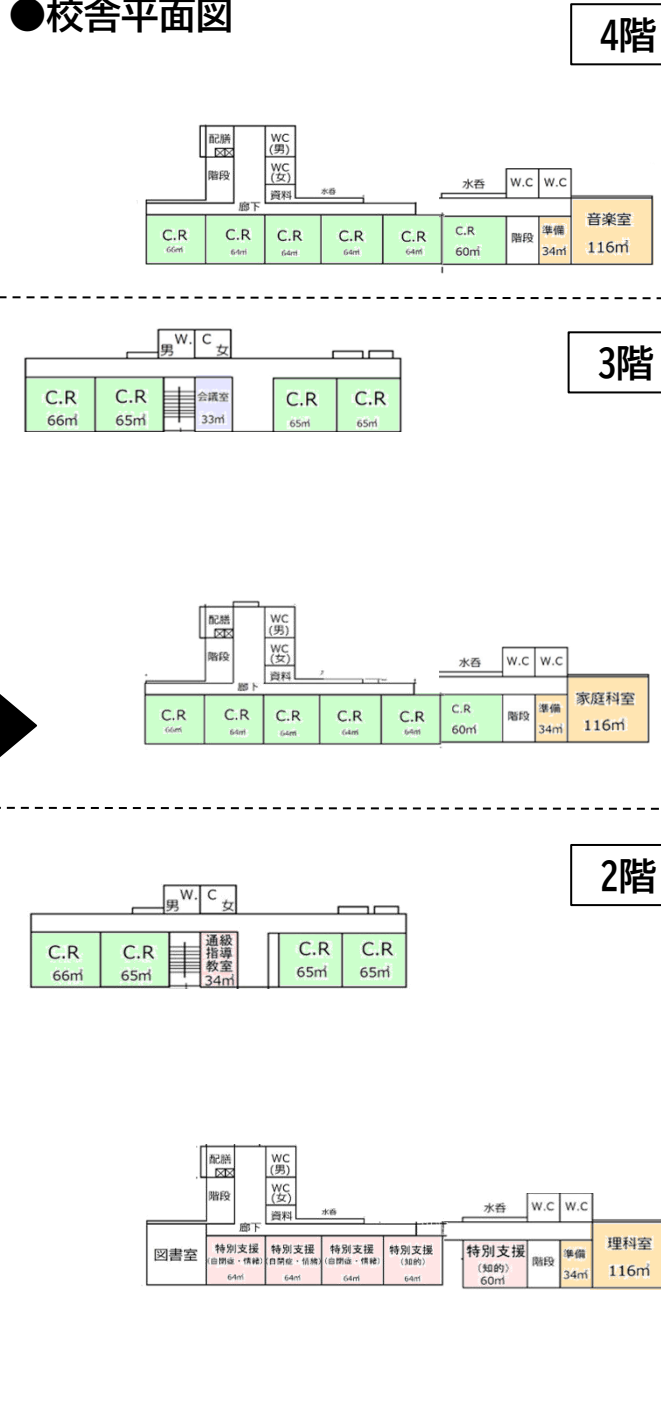
※渡り廊下・プール付属屋・体育倉庫等

●築年別整備状況

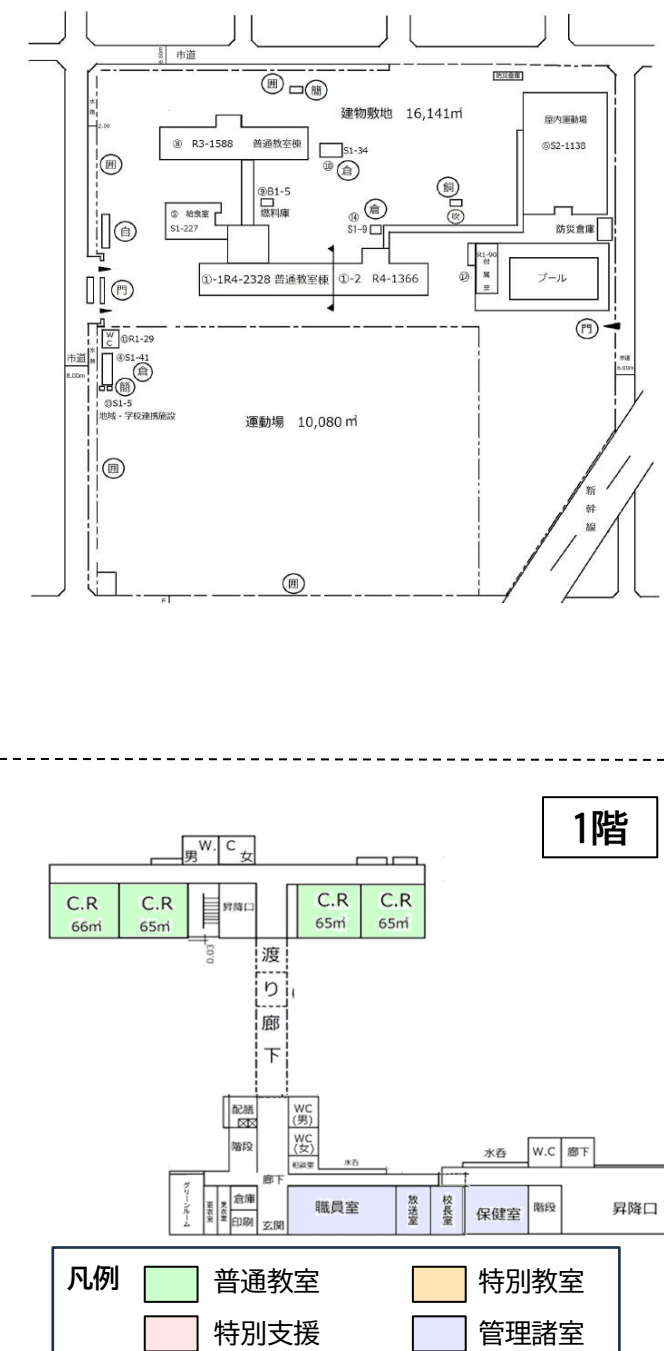


② 一般的な学校の教室配置 (西小学校の例)

●校舎平面図



●施設配置図



■校舎配置の課題

- ・ 片廊下式の教室で、1つの空間で一斉に黒板を向いて受けるスタイルで設計されており、教師と子ども同士が繋がるような、探求的な学習が考慮された設計にはなっていない。
- ・ 教室面積は65㎡程度となっており、タブレット学習に対応した新JIS規格(65cm×45cm)の机が35人分入ると狭い。さらに、大型モニターやタブレット保管庫、収納などのスペースも教室内で求められるようになっている。
- ・ 共用スペースが廊下に限られ、休み時間に交流を行えるようなスペースがない。

現状の校舎では、新しい教育には、対応しきれない

③ 整備事例

個別最適な学び

複数のクラスで フロアをのびやかに使う

～多様な学びを支える教室まわり～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 同学年あるいは、低学年、中学年、高学年ごとに、普通教室＋多目的スペース（少人数指導のためのスペースを含む）などから構成されるユニットをつくるもの。
- 学年段階に応じたユニットの空間構成とすることで、総合的な学習の時間における調べ学習や習熟度に応じた学習、またチーム・ティーチング^{注3}、などを効率的に展開することができる。

■期待される効果

多様な学習集団・学習形態に対応

- ・普通教室と多目的スペースが連続しているため、総合的な学習の時間での調べ学習や習熟度別学習、チーム・ティーチングなど学習集団・学習形態の変更を行いやすい。

学習に対する動機づけとなる空間

- ・多目的スペースに学習のための多様な教材等を用意し、教科の進行に対応した掲示・展示を行うことにより、子どもたちに学習内容に対する興味を抱かせるなど、学習に対する動機づけをする空間となる。

子どもたちの 憩いの空間づくり

- ・多目的スペースの一面にベンチやソファを置くことなどにより、子どもたちが自然と集まり、憩える空間を設けることができる。そこでの幅広い交流が、社会性や豊かな人間性の育成につながると思われる。

注 3

●チーム・ティーチング●

Team Teaching：複数の教師が指導計画の作成、授業の実施、教育評価などに協力してあたること。

出典：三省堂刊「大辞林」



写真2-1 低学年用の多目的スペース（福岡市立博多小学校）

出典：文部科学省（2010.1）「新たな学校施設づくりのアイデア集」

■計画のポイント

学年段階に応じたユニットづくり

- ・ユニット内に、教師コーナーや教材室等を設けることにより、学習空間を整ったものに維持することが容易になる。
- ・学年段階に応じた学習活動を行いやすいよう、ユニットを構成する空間や間仕切りの在り方を学年ごとに適切なものとする。

普通教室と多目的スペースとの連続性

- ・普通教室と多目的スペースなどを連続的あるいは一体的に使う学習も想定し、またその際には、先生の視野になるべく活動全体が入るように、普通教室と多目的スペースとの間の間仕切りの在り方（仕切りなく開放的にする、可動間仕切りにより開閉可能とする、見通しの良い透明の間仕切りを設ける等）を考える。

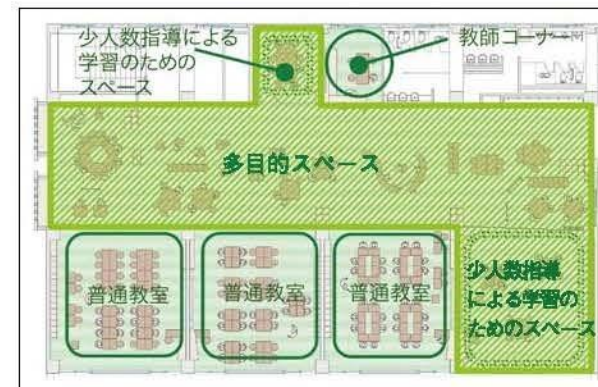


図2-1 ユニットの構成例（東京都武蔵野市立大野田小学校）



写真2-2 教材・家具が充実した多目的スペース（愛知県東浦町立卯ノ里小学校）

■補足説明

- ・一時的に学級数が増加しても学年としてのまとまりを維持できるよう、普通教室としても使用できるスペースをユニット内に予め設けておくこと等も考えられる。

☞ p.63「26.長く使い続けられる学校」参照

家具や備品の計画

- ・多目的スペースには、少人数指導などのための机、いすや可動式掲示板などを配置し、学習活動を豊かなものとする。

ICT^{注1}環境の充実

- ・多目的スペースの一面にコンピュータが利用できるブースを設けたり、授業の際にノート型のコンピュータを設置できるようにすることで、教室の近くで調べ学習等を行うことができる。

☞ p.21「7. ICTで学習活動が広がる」参照

各空間での音のコントロール

- ・普通教室および少人数指導のためのスペースでは、静かな学習環境も確保できるように、周囲との区画の方法や天井、床等の材質について音の伝わり方に配慮する。

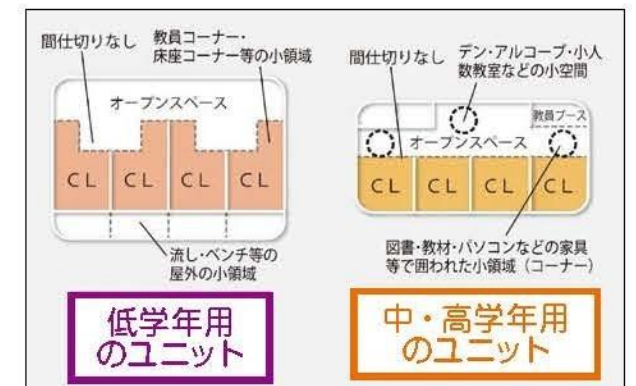


図2-2 学年段階に応じたユニットの変化例（広島県府中市立府中小学校・府中学校）



写真2-3 中・高学年用の多目的スペース（埼玉県戸田市立芦原小学校）

■効果的に利用するための注意点

- ・ユニットを利用して実施したい学習形態について、計画段階から関係者間で共通理解を図り、授業の際に同じユニットの先生同士で協力体制をとる。

③ 整備事例

協働的な学び

児童生徒の自主的な学習活動を支える空間

すぐに集まったり 分かれたり

～少人数指導などのための小空間を身近に作る～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 少人数指導などのための小空間を、普通教室などの近くに設けるもの。
- 授業の中で、個別又は少人数での学習が必要となったときに、他の学習集団と完全に切り離さずに、かつ、少人数でのまとまりをもって、学習することができる。

期待される効果

必要なとき、すぐに、少人数指導を実現

- ・教室での一斉授業の形態から、習熟度に応じた学習、グループ学習などにすぐに切り替えることができる。
- ・加えて、少人数がまとまりをもって体験的な学習をすることができる。

特別の支援を必要とする子どもたちのためのスペースにも活用

- ・教室の近くに音を仕切ることのできる空間があることで、普通学級に在籍している特別な支援を必要とする子どもが落ち着きを取り戻す空間としても活用することができる。



写真3-1 普通教室とは異なる雰囲気の小空間（広島県府中市立府中中学校・府中中学校）

計画のポイント

普通教室からの利用しやすさ

- ・少人数指導等に利用できる小空間を普通教室に隣接させたり、すぐに足を伸ばせる間近な場所に配置したりすることにより、授業の中でも活用しやすくなる。

居場所のできる空間

- ・子どもたちがその時々状態に応じて居場所のできる、デンのような空間とすることも考えられる。



写真3-2 廊下に向けたデン（福井県鯖江市立中河小学校）



写真3-3 特別の支援を必要とする子どもたちのための専用スペース（長崎県佐世保市立清水小学校）



写真3-4 多目的スペース内にある小空間（神奈川県川崎市立はるひ野小中学校）



写真3-5 多目的スペースのコーナー（埼玉県戸田市立芦原小学校）



写真3-6 普通教室と連続した小空間（東京都武蔵野市立大野田小学校）

音のコントロール

- ・周囲と音を仕切ることが可能な空間を、多目的スペースの内部などに計画しておく、使い勝手が良い。

親密さを感じられるづくり

- ・広さに見合った低めの天井高さにしたり、ベンチ、窓、開口部を設けたり、木材を利用しあたたかみのある空間にしたりすることで、普通教室の環境とは異なる雰囲気を持たせることも考えられる。

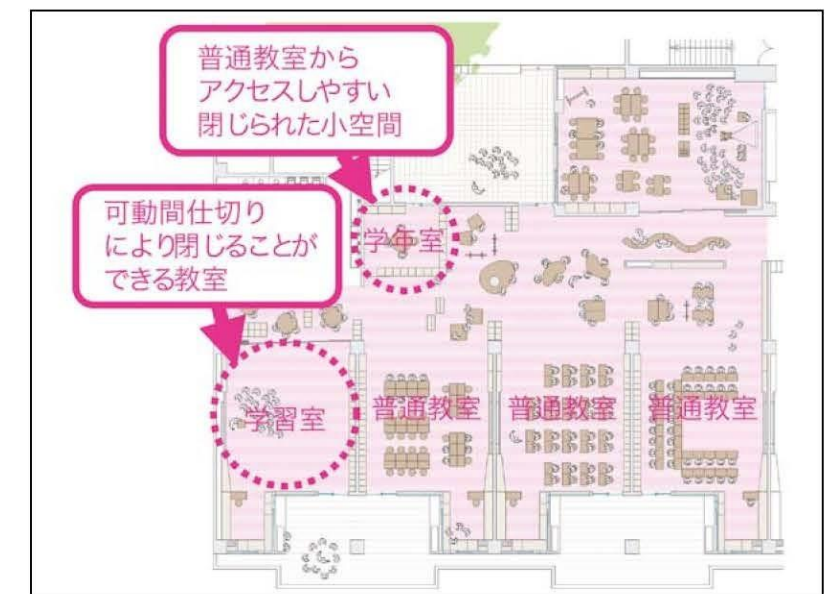


図3-1 少人数指導のための小空間と普通教室との位置関係（東京都武蔵野市立大野田小学校）

補足説明

- ・特別の支援を必要とする子どもがいる場合には、学習への取組に集中しやすく、また落ち着きを取り戻すための場所にもなる、専用のスペースを設けることも検討する。
- ・このアイディアで期待される効果を既存校で得るためのものとしては、中学校において、余裕教室を区切り半分ずつ使って外国語の授業の少人数指導を行っている例がある。

効果的に利用するための注意点

- ・使用予約や整理整頓のルールをつくり、必要なときに良好な状態で使えるようにしておく。

① 現状と課題

	項目	現状と課題
特別支援学級	特別支援学級在籍の児童生徒数の推移	- 平成18（2006）年の学校教育法改正による特別支援教育の本格的実施以降、児童生徒数は増加傾向となっており、<u>平成26（2014）年の40人から令和6（2024）年には125人と10年間で約3倍になっている。</u> - 合理的な配慮に対する保護者の理解が進んだことなどもあり、<u>今後もニーズが高まると予想</u>される。
	特別支援学級の設置状況	- 白岡市立学校の特別支援学級、知的障がい学級、自閉症・情緒障がい学級はすべての学校で設置されている。そのほかの障がい種別の学級は設置していないが、令和6（2024）年度までは肢体不自由学級を設置していた。 <u>特別支援学級は1クラスの最大人数が8人</u>であり、その人数を超えともう1クラス増やす必要がある。
通級指導教室	通級指導教室在籍の児童数の推移	「ことばの教室」「情緒通級指導教室」があり、「情緒通級指導教室」については児童数が過去5年間で増加傾向にある。
	通級指導教室の設置状況	「ことばの教室」は篠津小学校に、「情緒通級指導教室」は西小学校と白岡東小学校に設置されているが、設置校と設置校以外の学校の間には利用率に差がみられ、保護者の送迎が理由として考えられる。

1) 特別支援学級の児童生徒数の推移

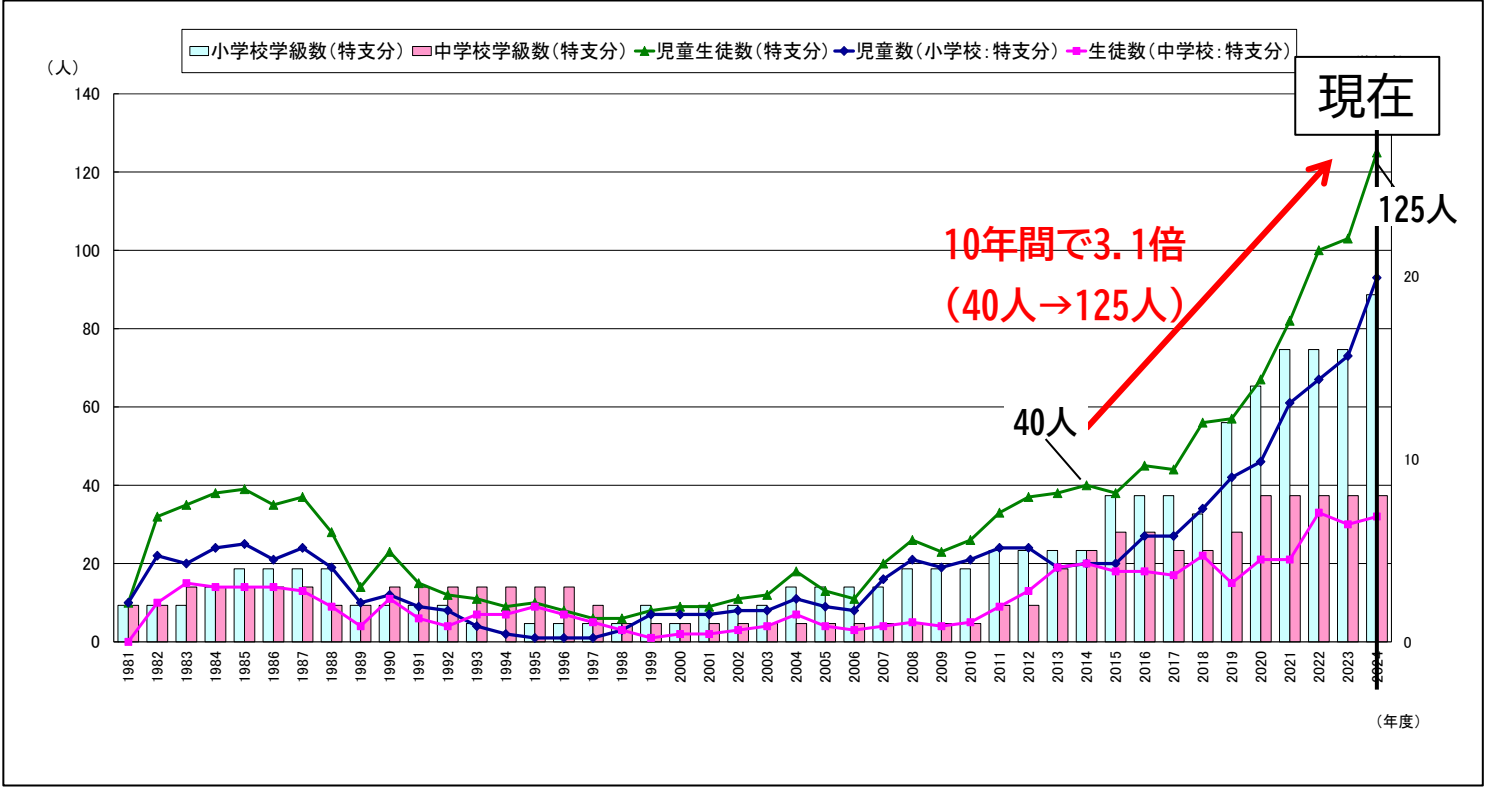


図 特別支援学級在籍の児童生徒数の推移

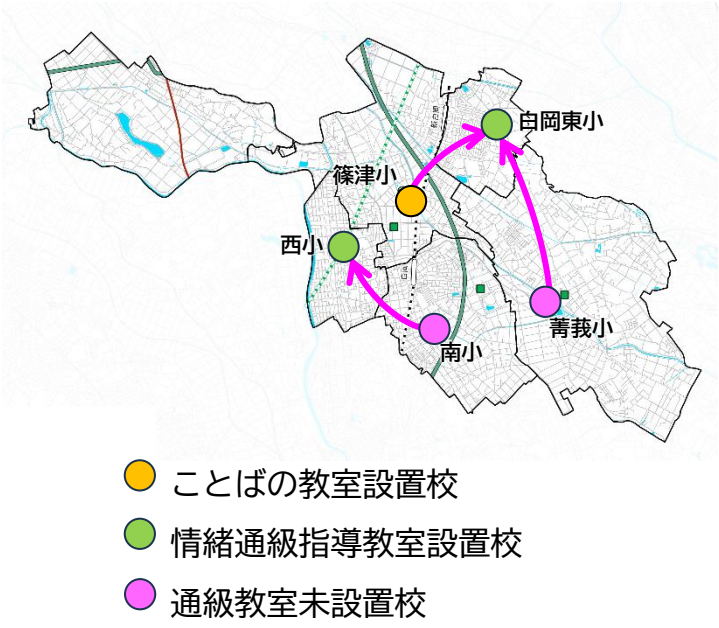
2) 通級指導教室の設置状況・利用状況

●「ことばの教室」

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7 児童数（人）	利用率
篠津小	14	15	11	11	13	11	480	2.3%
菁莪小	4	3	3	2	1	1	225	0.4%
大山小	1	1	1	1	0	—	—	—
南小	4	2	4	4	6	7	649	1.1%
西小	4	5	7	5	5	6	788	0.8%
白岡東小	0	6	8	6	8	6	478	1.3%
合計	27	32	34	29	33	31	2620	1.2%

●情緒通級指導教室

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7 児童数（人）	利用率
篠津小	0	0	0	2	2	2	480	0.4%
菁莪小	6	7	7	5	4	6	225	2.7%
大山小	0	0	0	0	0	—	—	—
南小	5	3	2	1	1	3	649	0.5%
西小	9	8	11	15	17	13	788	1.6%
白岡東小	1	9	8	10	10	12	478	2.5%
合計	21	27	28	33	34	36	2620	1.4%



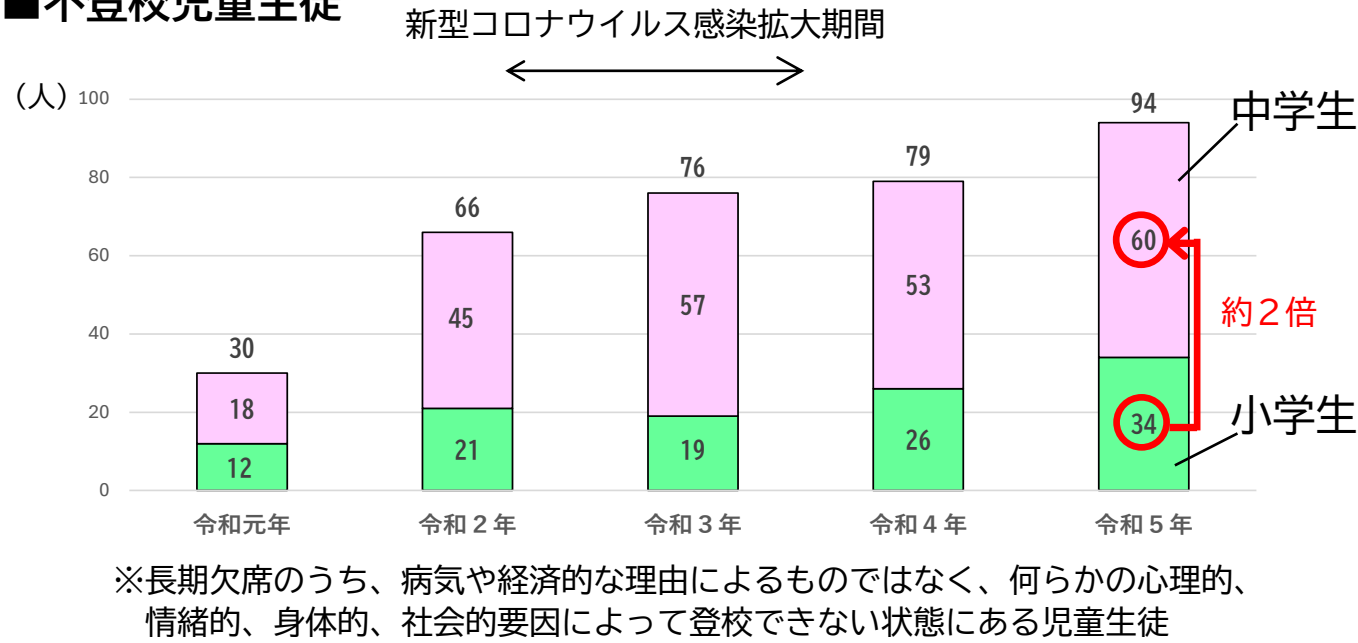
② 今後の方向性（案）

- ✓ 一人一人の教育ニーズに応えられるよう、特別支援学級等の体制及び環境整備の充実を図る。
- ✓ 通級指導教室未設置校の児童が参加しやすくなるよう、巡回型の通級支援等についても検討を進める。

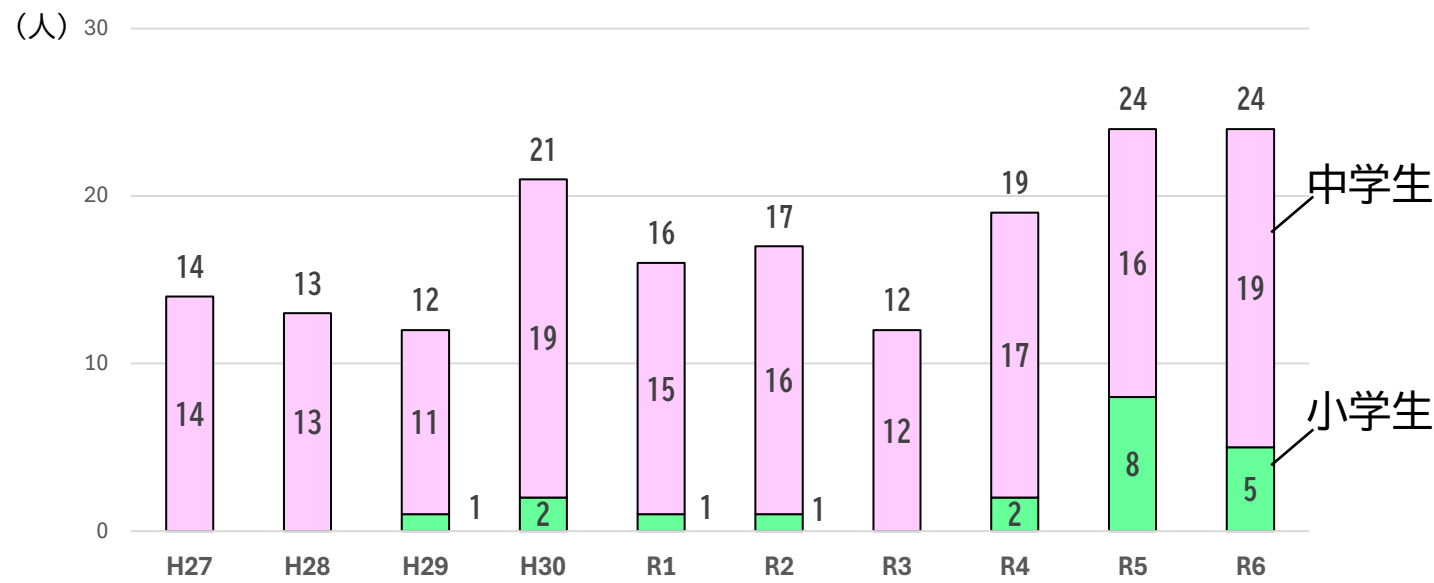
① 現状と課題

項目	現状と課題
不登校児童生徒数の推移	・ 不登校児童生徒は、コロナ禍の期間を挟んで増加傾向にあり、過去5年間で30人から94人と3倍以上に増加している。小中学生別では、中学生の増加の方が多く、人数も中学生の方が多い。
白岡市教育支援センターの在籍者数	・ 市では、市役所篠津分館の2階にある教育支援センターに、児童・生徒支援（適応指導教室）を設置している。 ・ 教育支援センターの利用者数は、過去10年間で14人から24人へと微増傾向にあり、特に小学生の利用者が増加している
「さわやか相談室」の設置	・ 各中学校に相談員を配置し、「さわやか相談室」を設置している。利用は、休み時間中となっている。

■不登校児童生徒



■白岡市教育支援センター在籍者数の推移



■さわやか相談室

- ・ 埼玉県では、いじめ・不登校の問題の解消を図るために平成8（1996）年度より県内の各中学校に「さわやか相談室」を設置しており、白岡市内の4中学校にも相談室がある。
 - ・ 学校や地域社会において児童生徒の悩み事が生じた時、いつでも気軽に相談に応じられる体制をつくり、安心して生活できる場と機会をつくることを狙いとしている。
 - ・ 開室時間は10～15時で相談員が常駐し、2週間に1度スクールカウンセラーが巡回する（例：菁莪中）。小学生や保護者も利用できる。
 - ・ 生徒は休み時間に利用することができる。
- ⇒教室に居られない生徒の居場所にはなっていない。



さわやか相談室（菁莪中HP）

■（他自治体事例）各学校における自由学習スペースの設置事例

- ・ 兵庫県高砂市では、令和6（2024）年度よりすべての小・中学校において、「校内サポートルーム」という名前の自由学習スペースを設置している。
- ・ 学校へは登校できるが、教室までは行けない子どもへの、多様な学びの場の提供と社会的自立を促すために支援。
- ・ 不登校支援員が教室内に常駐して支援を実施。

② 今後の方向性（案）

- ✓ 学校には登校できるが、教室までは行けない子どもへの支援の充実を図るなど、教育支援センターやさわやか相談室の充実を図る。